

## 単元名

# 「My Project8 日本文化を紹介しよう」 ～私の“Cool Japan”をジル先生に紹介しよう～

## 本単元で育成する資質・能力

高い志、振り返る力、チャレンジ精神、他者理解

## 単元について

本単元は、中学校学習指導要領（外国語編）「イ 話すこと」の（オ）「与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること。」に関する指導として位置づける。

「日本文化を紹介しよう」というテーマに基づき、月見とハロウィーンという日米の伝統・文化について述べたスピーチを読み、その後、自分たちの国や地域の文化や習慣、伝統行事などについて紹介するという内容である。まずは、モデルスピーチを読み取って概要や文章構成を理解し、それらを参考にしながら、自分たちの知る日本の文化や習慣、伝統行事などについて紹介するスピーチ原稿を書く活動へとつなげる指導を行う。その後、作成した原稿に基づいてスピーチ活動を行う。

本単元は、Program 5 から Program 6 までを学習した後の復習として設定されている。Program 6 で学習した分詞の後置修飾を活用して、物事を説明するために使える道具が増えたことを実感させるとともに、聞き手に分かりやすく話すためにはどのような工夫が必要かについて考えさせる。そして、スピーチの構成や流れ、表情やジェスチャー、絵や実物を効果的に提示する工夫など、英語でスピーチできる力とそれらを積極的に相手に伝えようとする態度を養う。

## 生徒の実態

次の表は、平成 29 年 9 月に実施した学習・生活アンケートのうち英語に関する結果の一部と、平成 28 年 12 月に行ったスピーチテストの結果をまとめたものである。

○ 平成 29 年 9 月実施 学習・生活アンケート結果

内 容	あてはまる		あてはまらない		肯定的 回答
	よく	やや	あまり	まったく	
英語の勉強は好きです。	32.6%	44.2%	16.7%	6.5%	76.8%
英語の授業は、他の教科や生活の中で読んだり、話したり、コミュニケーションをとったりすることの役に立ちます。	48.6%	39.9%	6.5%	5.1%	88.4%
英語の授業はよく分かります。	35.5%	42.8%	15.9%	5.8%	78.3%
私は将来、国際社会で活躍できる人になりたいです。	18.8%	31.9%	32.6%	16.7%	50.7%

○ 平成 28 年 12 月実施 スピーキングテストの結果

単元の終わりに、条件カードに従って、初めて見る地図を見ながら制限時間内に道案内を行うというパフォーマンステストを実施し、以下の評価基準に従い ALT の審査によって、5段階で評価を行った。

評価項目	5段階評価の平均
声（大きさ、発音、速度）	4.4
態度（表情、アイコンタクト、ジェスチャー）	4.6
流暢さ	4.8
内容の質	4.2
条件に応じた対応（目標の達成、即興力）	3.2

「英語の勉強は好きです。」と肯定的に答えた生徒は、76.8%であったが、「英語の授業は、他の教科や生活の中で読んだり、話したり、コミュニケーションをとったりすることの役に立ちます。」と肯定的に答えた生徒は、88.4%であった。英語の勉強があまり好きでない生徒であっても、英語が広く社会生活の中で役立つツールであると感じていることが分かる。これは授業の中で、実際の日常生活で起こりうる場面を設定し、必然性をもたせたり、ゴールイメージをもたせて授業を進めたりした結果、英語がより身近なものとして捉えられるようになってきたためと考える。また、第2学年時には、修学旅行で大使館を訪問し、英語で熊野町や熊野筆についてプレゼンテーションを行ったことも、貴重な体験となり、その後の英語学習において、生徒の意識の変化に大きな影響を与えたと考える。

一方、「私は将来、国際社会で活躍できる人になりたいです。」と肯定的に答えた生徒は50.7%と、英語学習への意識の高さと、実際に英語を活用して、自ら広く世界に発信していきたいという主体性においては大きな隔たりが見られる。これはスピーチテストの結果からも同様の傾向が見える。声、態度、流暢さ、内容の質といった、意欲・関心、表現力に関わる生徒のコミュニケーション力は4ポイント以上で高く評価されているが、目標の達成、即興力といった、条件に応じて対応するための臨機応変さや積極性においては、評価が3.2ポイントと低い。英語を学びたいという意欲はあるが、実態として、「間違えたら嫌だ。」「自分の英語が通じるか不安だ。」など、間違いを恐れるあまり、これまでの学習を通して得られた知識を活用して、主体的、積極的に英語で表現していこうとする点に課題があると考えられる。

## 単元の指導

本単元において、まず、「私の“Cool Japan”（かっこいい日本）をジル先生に紹介しよう。」という課題設定をする。クリスマスにALTのジル先生がアメリカに里帰りをするという設定で、その際、日本について家族に話したいため、教えてほしいと生徒に伝える。生徒に、ジル先生の願いに応えようという思いを喚起させる。目的意識をもたせて課題に取り組みせ、生徒がcool「かっこいい」と思う日本の伝統や文化、習慣、行事などについて紹介する英文をペアで書かせる。最後に、「Cool Japan コンテスト」を行い、ALTの前でスピーチをさせて、どのペアの紹介がもっともcoolであるかを競う活動を行う。

そのために、まず、教科書の例文を参考に、スピーチの構造を考えさせる。また、これまでに学んだ表現から活用できそうなものを選び、書きためさせておく。“Cool Japan”の例を映像などで見せて、それがcoolだと思わせるためにどのような工夫がされていたかを発表させ、その後、宿題として自分たちの考える“Cool Japan”を探させる。

ALTや他の教員が考える“Cool Japan”の例を紹介し、それらを参考にしながらそれぞれのアイデアを持ち寄り、ペアで一つ選び、協力して文を考えさせる。自分にとっての“Cool Japan”について英文を考えさせる。その際、辞書を活用しながらマッピングの手法を用いて、つながりを意識した文を作成させたい。また、Program 6で学習した分詞の後置修飾を使って、紹介するものについて詳しい説明を付け加えることができることを目指す。

その後、班で発表練習を行わせ、紹介するものについて、単なる説明文に終わることがないように、何がcoolなのか、それがcoolだと思わせるために、更にどのような工夫が必要かなどについて意見を交流させ、整理・分析させ、自己を振り返らせる。その際、一人一人に、英語らしい発音とイントネーション、表情、ジェスチャーなどに気を付けさせながら、相手意識をもって発表の練習をさせていきたい。

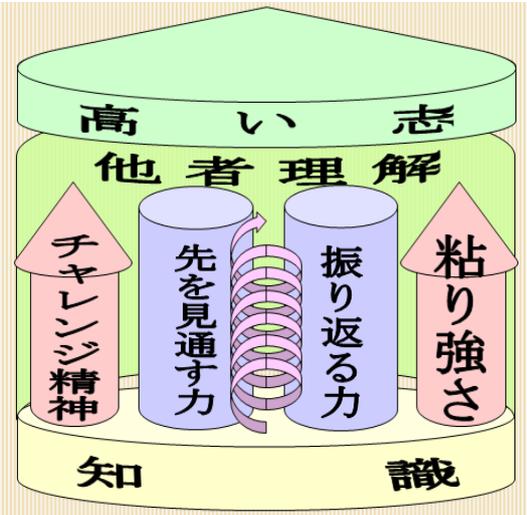
## 単元の目標

- ALT に対して、声量、表情、ジェスチャーに注意して、積極的に“Cool Japan”を紹介しようとしている。
- 辞書を使うなどして、分からない表現も積極的に調べようとしている。  
【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- 聞き手に対する分かりやすさを意識して、“Cool Japan”についてスピーチすることができる。
- ALT に英語らしい発音とイントネーションに気を付けて話することができる。  
【外国語表現の能力】
- 分詞の後置修飾の用法について理解している。  
【言語や文化についての知識・理解】

## 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
① 辞書を使うなどして、分からない表現も積極的に調べようとしている。 ② ALT に対して、声量、表情、ジェスチャーに注意して、積極的にコミュニケーションを図っている。	① 聞き手に対する分かりやすさを意識して、“Cool Japan”についてスピーチすることができる。 ② ALT に英語らしい発音とイントネーションに気を付けて話することができる。	/	① 分詞の後置修飾の用法について理解している。

## 育成しようとする資質・能力の本単元とのかかわり

本校が身につけさせたい7つの力 	〈高い志〉 ○ 出会った外国の人に、積極的に日本文化について説明する。
	〈知識〉 ○
	〈振り返る力〉 ○ 友だちの発表を聞いて、自分の発表の仕方を見直し、改善する。
	〈先を見通す力〉 ○
	〈チャレンジ精神〉 ○ ALT に積極的に、わかりやすく“Cool Japan”を伝える。
	〈粘り強さ〉 ○
	〈他者理解〉 ○ 相互評価を行うことで他の発表の良さを知り、自己表現に生かす。 ○ 相手に伝わりやすい発表にするために必要な内容を取捨選択し、文章構成やつながりを工夫する。

## 指導と評価の計画

(全 8 時間)

次	学習内容 (時数)	評 価					評価規準 (評価方法)	資質・能力の評価 (評価方法)
		関	表	理	知			
1	<p><b>課題の設定</b></p> <p>○ 「私の“Cool Japan” (カッコいい日本) をジル先生に紹介しよう。」 (1 時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ALT からの「みんなが考える“Cool Japan” について教えてほしい」というビデオメッセージを見て、目標を設定する。</li> <li>最終的に「Cool Japan コンテスト」を行い、ALT にどの紹介がもっとも cool であるかを競う活動を行うことを確認する。</li> <li>“Cool Japan” についてのイメージをマッピングで書き出し、紹介してみたいテーマに順位を付ける。</li> </ul>	◎					ア① (活動の観察)	他者理解 (活動の観察)
2	<p><b>情報の収集 1</b></p> <p>○ アメリカの伝統文化について述べたスピーチを読んで、その構成・内容を理解する。 (1 時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ハロウィーンを説明する文を読み、文章構成や内容を理解する。</li> <li>モデル文の中から参考になる文を抜き出す。</li> <li>読み取りに必要な語句の意味を知る。</li> </ul> <p>○ 日本の伝統文化について述べたスピーチを読んで、その構成・内容を理解する。 (1 時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>月見を説明する文を読み、内容を理解する。</li> <li>本文の順序を考えさせる。</li> <li>文法や語句の意味を知る。</li> </ul> <p><b>整理・分析 1</b></p> <p>○ モデル文を参考にして、スピーチの構成の仕方を考える。 (1 時間)</p>	○					ア① (活動の観察)	他者理解 (活動の観察)

3	<p><b>情報の収集 2</b></p> <p>○ 自分がスピーチしようとするものについて、情報を収集する。(1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本文化を紹介するビデオを見せ、どんな工夫がされていたか、どう紹介すればうまく伝わるかを発表する。</li> <li>・ 紹介したいテーマをペアで決定し、文章構成を考える。</li> </ul> <p><b>整理・分析 2</b></p> <p>○ 日本文化について ALT に紹介したいテーマに沿って、マッピングを活用して、原稿を組み立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ALT や他の教員の考える“Cool Japan”の紹介例を確認する。</li> <li>・ 紹介例をもとに、ペアで紹介文を考える。</li> <li>・ 聞き手に対して分かりやすく話すための工夫を考える。</li> </ul> <p>○ スピーチの構成を考えて7文以上の紹介文を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ペアで考えた文のこだわりポイントを班で発表し、評価し合う。</li> </ul>	○			ア① (ワークシート)	他者理解 (ワークシート)
4	<p><b>まとめ・創造・表現</b></p> <p>○ 前回の相互評価から改善点を加え、相手に分かりやすい紹介文を書く。(2時間)【本時1/2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 紹介文を完成させる。</li> <li>・ 班で原稿を見合い、チェックし合う。</li> </ul>	◎	○	○	ア① (ワークシート) エ① (ワークシート) イ① (活動の観察)	振り返る力 (ワークシート)
5	<p><b>実行 振り返り</b></p> <p>○ 発表「Cool Japan コンテスト」(1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ALT の前で、発表を行う。</li> </ul>	◎	○	○	ア② (活動の観察) イ① (スピーチ発表) イ② (活動の観察)	高い志 (活動の観察) チャレンジ精神 (活動の観察)

**本時の学習 (6 / 8 時間)**

- (1) 本時の目標
- ① 相手にわかりやすい文章になるよう工夫する。
  - ② 文章構成を考え、スピーチ原稿を組み立てることができる。

(2) 本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項 (◇) 「努力を要する」状況と判断した生徒への手立て(◆)	評価規準 (評価方法)	資質・能力の評価 (評価方法)
<b>1 帯学習 (8分)</b>			
○ あいさつ  ○ Student Instructor (英語日直)	◇ 英語日直の生徒を意欲付けたり、活動後に評価したりする。		
<b>2 前時の復習と本時のめあてを確認する。(7分)</b>			
○ VTR を見て、ALT からのメッセージと、ALT と他の教員の考える“Cool Japan”の紹介例を再確認する。  ○ 本時のめあてを確認する。	◇ 目的意識をもたせるよう、課題を再確認させる。 ◇ そこれが cool だと思わせるためにどういう工夫がされているかに着目させる。		
日本文化について、聞き手がわかりやすいスピーチ原稿を組み立てることができる。			
<b>3 文章構成を考え、聞き手にわかりやすい文章を考え、スピーチ原稿を作成させる。(20分)</b>			
○ スピーチ原稿作成のためのポイントを確認する。  ○ これまでに作成した下書き原稿をもとに、ペアでスピーチ原稿を作成する。 ・ 分からない表現は、辞書を引きながら書く。 ・ 分詞の後置修飾を活用し、紹介するものについて詳しく説明する文を書く。 ・ 聞き手を意識して、何が cool なのか考え、わかりやすい説明になるように書く順番を考える。	◇ 生徒に考えさせる発問をし、スピーチ原稿を書くときの工夫点を考えさせる。 ◇ 教科書本文や書きためプリントから役立つ表現を活用させ、それを参考に原稿を作成させる。	ア① (ワークシート)  エ① (ワークシート)	他者理解 (ワークシート)
<p>【「十分満足できる」状況 (A) と判断する根拠】</p> <p>○ 分詞の後置修飾を使って、どうして cool なのかの理由を含めて、スピーチ原稿を作成し、聞き手を意識して、説明する順番を考えることができる。          &lt;記述の例&gt; My “Cool Japan” is Japanese kimono. It is the traditional Japanese national costume. It is colorful and beautiful. We can enjoy many kinds of patterns or colors. Nowadays Japanese people wear the kimono for special events, such as the New Year's Day, Coming-of-Age Day or wedding receptions.          Yukata is also a kind of kimono <u>worn in summer or after a bath</u>. If you go to a summer festival in your yukata, people will look at you and think you are “cool”!!</p>			
<p>【「おおむね満足できる」状況 (B) と判断する根拠】</p> <p>○ 分詞の後置修飾を使って、どうして cool なのかの理由を含めて、スピーチ原稿を作成することができる。          &lt;記述の例&gt; My “Cool Japan” is Japanese kimono. It is the traditional Japanese national costume. It is colorful and beautiful. Please wear kimono. It's very cool!          Yukata is also a kind of kimono <u>worn in summer</u>.</p>			
<p>【「努力を要する」状況 (C) と判断する生徒への手立て】</p> <p>○ 分からない場合は、ペアの人と相談させながら、質問やアドバイスをさせる。</p>			

4 スピーチを班内で相互評価する (10分)			
○ 班内で原稿を見合い、わかりにくいところをチェックし合う。	◇ 聞き手にわかりやすい表現になっているか、伝わりにくかったところはどこかなど、お互いに意見交換をさせ、それぞれの意見を参考に改善させる。	イ① (活動の観察)	他者理解 (活動の観察)
5 本時の学習の振り返りと次時の学習内容を確認する。(5分)			
○ 自己評価を行う。	◇ めあてに対する自己評価をさせる。		
○ 次時の確認を行う。	◇ 課題を確認させる。		

### (3) 板書計画

<b>本時のめあて</b>	日本文化について、聞き手がわかりやすいスピーチ原稿を組み立てることができる。
Day	
Date	課題 私の“Cool Japan” (かっこいい日本) をジル先生に紹介しよう。
Weather	
スピーチ原稿作成のポイント	
1時間の流れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 相手に分かりやすい文章構成。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「～されている…」 「～している…」 とくわしく説明する。</li> <li>・ こだわりポイントを工夫する。</li> <li>・ 情報を整理して、説明する順番を考える。</li> <li>・ その他 生徒から引き出した意見 など</li> </ul> </li> </ul>

## 検 証

ALTの前で「Cool Japan コンテスト」を行い、スピーチを評価する。

項目	得点	評価基準
声 (大きさ, 発音, 速度)	5点	適切な声の大きさ, 発音, 速度で対話できた。
	4点	ほぼ適切な声の大きさ, 発音, 速度で対話できた。
	3点	多少の聞き取りづらさや発音の誤りがあるが, 言っていることは理解できた。
	2点	聞き取りづらく, 一部言っていることが理解できなかった。
	1点	内容が聞き取れず, 言っていることが理解できなかった。
態度 (表情, アイコンタクト, ジェスチャー)	5点	アイコンタクトがしっかりでき, ジェスチャーを交えながら表情豊かに対話できた。
	4点	アイコンタクトができ, 多少のジェスチャーや表情も交え対話できた。
	3点	アイコンタクトが時々できるが, ジェスチャーや表情はあまりできていない。
	2点	アイコンタクト, ジェスチャー, 表情がほとんどない。
	1点	アイコンタクト, ジェスチャーが全くなく, 無表情であった。

流暢さ	5点	全体を通してスムーズに発表できた。
	4点	スピーチが時々途切れることがあったができた。
	3点	スピーチが途切れがちで、何度か間があいた。
	2点	スピーチが途切れることが多く、何度も間があいた。
	1点	発表がほとんど成立しなかった。
内容の質 ・ 分詞の後置修飾 ・ 7文以上 ・ 文のまとまり ・ なぜ cool なのかの理由	5点	作文の条件を全て満たし、かつ工夫がある。
	4点	作文の条件を全て満たしている。
	3点	いくつかの誤りがあるが、作文の条件をほぼ満たしている。
	2点	作文の条件を半分満たしている。
	1点	作文の条件を全く満たすことができていない。
暗唱	A+	原稿を全く見ずにすらすらと暗唱できた。
	A	時々つまったり、原稿を見たりしたが、ほぼ原稿を見ずに暗唱できた。
	B	時々原稿を見たが、半分程度は暗唱できた。
	C	全て原稿を見たため、全く暗唱できなかった。